テーブルの向こう側から　補足資料
～Vol.26 ～

2017年11月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動は日本でのヘルシーな食生活の推進と、支援先での学校給食の提供が両輪になっています。ニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

食堂をご利用される皆さまに親しんでいただけるよう、改良を重ねてまいりたいと考えております。皆様からのご意見やご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

ルワンダ　バンダ村での給食プログラム

TFTはルワンダのバンダ村での給食を支援しています。バンダ村は南西部のニュングウェ国立公園の辺境の小さな村で、ルワンダ国内でも貧困率の高い地区の一つです。TFTは村の小学校2校、幼稚園３園で、毎日約2,200名の生徒・園児に給食を提供しています。

この補足資料では、学校に通う生徒や親の声をお届けします。

日本国内での活動状況のお知らせ

＜これまでに寄せられたご寄付＞　＊TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 5,333万4584食分　（2017年8月時点）

東アフリカとアジアの６カ国（ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

＜「おにぎりアクション」へのご参加、ありがとうございました！＞

10月16日の世界食料デーを記念して実施した「おにぎりアクション2017」が無事に終了しました。多くの企業そして個人サポーターの皆さまに、様々なかたちでご支援、応援いただいたことに、あらためて心より御礼申し上げます。

おにぎりの写真1枚の投稿につき、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食を届けることができる「おにぎりアクション」に、今年は**16万枚を超えるおにぎり写真**が寄せられ、協賛企業からのご寄付で**約100万食の給食***を届けることができる見込みです。

「おにぎりアクション」の結果は、http://jp.tablefor2.org/campaign/onigiri/ でご報告しています。

Facebookページで情報発信中

www.facebook.com/tft.jp/

＊ 速報値のため、最終的な結果は現在集計中です。

補足資料の2ページ目以降は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます。「テーブルの向こう側から」の本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイト（http://jp.tablefor2.org/popup/bulletin.html）からダウンロードしてご利用いただけます。

小学校を中退するバンダ村の子どもたち

TABLE FOR TWO

ルワンダの小学校就学率は99%で、都市部でも農村部でもほとんど全ての子どもが小学校に入学します。

けれども小学校に入学したからといって、全員が6年間の課程を修めて卒業できるわけではありません。小学校に最後まで通うことができるのは約６割。残りの４割の生徒は家庭の事情などで途中で学校に通わなくなり、中退してしまいます。

ルワンダでは３年間の中学校も義務教育になっていますが、実際に中学校に進学できるのは３～４割にとどまっています。

中退して農業の手伝いや弟妹の世話をする子どもたち

小学校に通わなくなってしまう理由は様々です。学年が進むにつれて授業についていけなくなってしまった生徒が、何かのきっかけで数日間学校を休んでしまうと、ますます授業の内容が分からなくなり、そのまま中退してしまうケースもよくみられます。

学校に通わなくなった子どもたちの多くは、農業を手伝ったり、親が不在のあいだ、小学校入学前の幼い弟妹の世話をして過ごします。

自分自身も小学校を卒業しておらず、学校に通えなくても仕方ない、とあきらめる両親も多いのが実情です。

TABLE FOR TWO

３歳の子どもをつれて復学したお母さん

ヴェスティーナさんは子どものころに小学校に通っていたものの、授業についていけずに５年生の途中で中退してしまいました。結婚し子どもを産んで、25歳になってから小学校に戻ってきました。３歳になる子どもをおぶって授業に参加しています。

５年生で学校に通わなくなってしまったときのことを振り返って、「お腹が空きすぎて、授業に集中できなくなってしまった」と話しています。

15歳年下のクラスメイトと机を並べて学ぶヴェスティーナさんは、「社会科の授業が一番好き。勉強して知識を身につけ、人生を前進させたい。子どもに良い暮らしをさせてあげたいし、勉強を教えてあげられるお母さんになりたい」と話してくれました。

さらなる成長に向けて、課題も山積

13歳のヴァレンティーナさんは小学校２年生のクラスで学んでいます。本来であれば中学校に進学している年齢ですが、６年前に学校に通わなくなってしまったため、中退した学年から学び直しています。

彼女はバンダ村出身ではありません。小学校をやめてから最近まで、地元の村の近くの町で、現金収入を得るために働いていました。

バンダ村に住む親戚から学校で給食が食べられることを聞き、親戚の家に寝泊まりしながら学校に通うことを決めました。

「２回目の機会なので、きちんと勉強を続けて、中学校まで卒業したい」と語ってくれました。

生徒たちが楽しみにしている給食の時間

毎日の給食は、生徒たちが最も楽しみにしている時間です。バンダ村では給食室でまとめて調理した給食をプラスチックの容器にいれて、小学校や幼稚園に配達しています。教室に給食が届けられると歓声があがります。

運搬用の大きな容器から、プラスチックカップにお粥を注ぐのは、生徒が当番制で行っています。

周囲の友だちとおしゃべりしながら給食を食べる教室には笑顔があふれています。

給食のおかげで生徒たちは午後も集中して授業が受けられるようになりました。

バンダ村の小学校から届いたメッセージ

給食プログラムを継続的にご支援くださっている皆さまに、バンダ村からのメッセージ写真をお届けします。**“We thank you for your support. ARIGATO!“**